

本稿は、8月28・29日に行われた自治労連第44回定期大会での代議員発言について、加筆・修正したものです。

誇りと怒りの3Tアクションの取り組みと 福岡市・北九州市の市長選挙への決意

福岡自治労連

誇りと怒りの3Tアクションの取り組みについて報告します。また、この秋から冬にかけて行われる、福岡の両政令市の市長選挙についても述べさせていただきます。

「ほこいかアンケート」の寄せられる「組合に入りたい」「組合の話を聞きたい」の声

福岡自治労連では、「ほこいかアンケート」で、これまで十分つながりをつくれなかったところにも働きかけ、つながりをつくるきっかけにしようと、提起しました。

「ほこいかアンケート」は、福岡では現在までのところ、約270件の回答が寄せられています。アンケートには自治労連の加入単組から、自治労連には結集していないところ、3Tアクションの前に取り組まれた学童保育指導員のアンケートに協力をいただいた方にも送りました。

改善してほしいこととしてあげられたトップ3は賃金の引上げ、一時金の支給、そして継続雇用となっています。家計の主収入については、自分もしくは自分も含むと回答した方が半数となり、賃金や一時金引上げや安定した雇用の確保がいかに切実かを表しています。

また、やりがい・誇りについては半数以上が「持っている」と回答、「少しある」を含めると8割以上の方からやりがいがあるという回答が寄せられています。自由記入欄には「やりがいだけでやっています」「やりがいはあるが、継続してもらえるか不安です」

“やりがい搾取”という言葉がありますが、まさに各職場ではこの実態があると感じます。

自由記入欄には、切実な声が寄せられました。正規職員に対しては「正規職員は会計年度任用職員をかなり職員より下に見ている、耳にする度に不快」「正規職員は試験に一度通ればその後の働きぶりは関係ないが、会計年度任用職員は、任期が切れるとなれば毎度試験を受け、採用されなければすぐに職を失う」など職員への不信も記載したものもありました。正規と会計年度任用職員の分断はこういところから生まれるのかと実感するものでした。

労働組合に対しても「話を聞いてもらえなかった」「名前を聞いてもらえなかった」「スルーしないで」など、厳しいものもありました。取り組みの課題も多岐にわたり、職場の役員も業務が多忙になる中、十分に応えきれていない現状もあります。職場の会議でも会

計年度任用職員の現状を訴えても取り上げてもらえない中、誰かに言いたい、声を上げたい、そんな思いがQRコードによる回答に寄せられています。

現在は実態レポートの作成にむけて、各単組では頭をひねっているところです。県自治労連の役員が考えたこなれたものでなく、当事者のみなさんの言葉で、現場の職員さんの心情にかみ合ったレポートを作成してほしい、と呼びかけています。そしてすべての会計年度任用職員にレポートを返し、ほこイカ署名に取り組んでいきたいと思えます。

また、自治労連に結集していないところからも「組合に入りたい」「組合の話を知りたい」という声が、名前と連絡先入りで寄せられています。早急に接触をはかり3Tの「つづけよう、つながろう、たちあがろう」の具体化を図りたいと思えます。

福岡市、北九州市の2つ選挙をたたかいぬく

さて、福岡では、来年春の統一地方選挙の前に、11月に福岡市長選挙、来年2月には北九州市長選挙と、両政令市の選挙が行われます。自治労連は「公共」を取り戻そうというスローガンを掲げましたが、両市とも「最少の経費で最大の効果をあげる」「民間でできるものは民間へ委ねる」と民間委託や医療や保健所の削減、職員の削減が行われてきました。

福岡市では安倍元首相の死去により、施設での弔旗掲揚に「配慮」を求めるとする文書を出され、教育委員会からも全市立学校の校長宛てに、弔旗掲揚に「配慮」を求める通知がだされています。市内の施設で弔旗が掲げられ、市民から困惑や懸念する声があがりました。また、区役所の窓口にはあのパソナが

受託し、地域の労働組合や市民からも問題を指摘する声が上がっています。

北九州市は、現職市長は現時点では引退を示唆しています。現在のところ、福岡県知事選挙に出馬した元厚生官僚が名乗りをあげて動き始めています。

福岡自治労連は、これらの選挙も視野に入れ、この間、自治労連本部の佐賀中央執行委員を講師に招いたデジタル化問題の学習会、県の自治体問題研究所の講師で財政分析の学習会を開催しました。それぞれ「問題点がよくわかった」「行財政のポイント、見方がつかめた」という感想も寄せられました。引き続き学習を深め、さらに市民団体や地域を巻き込み、何よりも、「公共」とは何かを問い、コロナ禍で明らかになった脆弱な自治体を転換し、市民のいのちや暮らしを守る自治体の実現にむけて取り組みをすすめていきたいと計画しています。

沖縄県知事選挙に続き、福岡市、北九州市の2つ選挙を闘い抜きたいと思えます。